

## 第4学年「国語」学習指導案

授業者 片山 守道

2月21日（金）3階A室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

### 1 単元名 読みを広げ、考えを深める 『世界一美しいぼくの村』

### 2 単元について

単元 目標	○様々な情報を関連づけて、作品の背景となる異国の文化や状況を知り、具体的に想像を広げながら場面の移り変わりや情景を読む。 ○作品や資料を読んだことから得た思いや考えを対話を通して共有し、自分の考えを深める。
----------	--

文学作品を読むという行為を通じて、人は、実生活とは異なる作品世界と出会い、登場人物に寄り添うことで、様々な疑似体験をすることができる。4年生の子どもたちは、これまでに『こわれた千の楽器』『白いぼうし』『ごんぎつね』『一つの花』などの文学作品を読み、空想世界や戦中戦後の世界など、現実には体験できない世界と出会ってきた。このように、新たな、未知なる世界と手軽に出会えることは、文学作品の魅力の一つと言えよう。

学習材『世界一美しいぼくの村』は、アフガニスタンのバクマンという村に住む少年ヤモが父の手伝いで町へ果物を売りに行った一日を通して、美しい自然や活気溢れる町の様子、ヤモの家族や村を想う温かい気持ちが描かれている。内戦中でありながらも生き生きと暮らす様子に幸せが感じられるだけに、その村がもうないという最後の一文の衝撃は大きく、様々な疑問や問題意識を生むことだろう。

子どもたちにとって馴染みのないアフガニスタンという異国を舞台とした作品を通して、新たな世界と出会い、家族愛や戦争への問題意識、アフガニスタンへの関心など未知への興味を広げていきたい。そして、様々な情報に触れながらそれらを追究することで、一人ひとりが自分なりの考えをつくり、対話を通して深めていくことにより、自分の世界を広げ、ことばに対する「感度」を磨くきっかけとなることを願っている。

### 3 学習指導計画（8時間目／全10時間）

- (1) 絵本「せかいいち うつくしい ぼくの村」を読み、ノート作りをし、学習の見通しをもつ。（2時間）  
\*アフガニスタンや海外の様々な暮らしや文化が分かる情報を収集する。（家庭学習）
- (2) 「世界一美しいぼくの村」を読み、人物の心情や情景など作品世界をとらえる。（2時間）
- (3) 集めてきた情報を共有し、絵本「ぼくの村に サーカスが来た」「せかいいち うつくしい村にかえる」を読んで、自分なりに「作品のメッセージ」を受け止めて書く。（2時間）
- (4) 作品世界と向き合ってみて、自分が考えていることについて対話する。（本時2／3時間）
- (5) 学習を振り返るとともに、今、自分の関心が高まっているテーマについて思い描く。（1時間）

### 4 本時の学習について

#### (1) 本時のねらい

- ・作品世界のとらえや様々な情報から、自分が関心をもったことを掘り下げ、考えを深める。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時までの学習を振り返り、本時の話題を確認する。	○板書等で経過を整理し、論点を明確にしたい。 ○根拠や理由を明確にするよう促す。
2 様々な資料や情報を元に、それぞれの考えを聞き合う。	○他者の考えを受け止めるための質問を意識させる。
3 本時の学習をふり返る。	○一番響いた発言を意識させる。

#### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・他者の考えを聴き「感度」を高めながら、対話を通して、自分の考えを深めようとしていたか。